

後世に誇れる日本を創ろう

高齢者大会 in 高松に5100人

10月10、11日、香川県高松市で第26回日本高齢者大会が開催された。保団連も同大会実行委員会に参加している。2日間でのべ5100人余が参加し、安心して暮らせる街づくりや、「社会保障と税の一体改革」阻止などの運動を交流した。

日本高齢者大会中央実行委員会の鐘ヶ江正志事務局長は基調講演で、

「保険で良い歯科医療を」呼び掛け

「長寿を人類の夢の実現」として、全ての世代が祝福できるよう、知恵と力を津々浦々で発揮して後世に誇れる未来ある日本社会を創造していきましょう」と呼び掛けた。



分科会にて、口腔の健康づくりについて講演する児嶋氏

徳保団連理事（徳島県保険医協会副理事長）がいさづ。「現在、歯と全身疾患の関連が明確になり、歯科治療の役割が重要になってきている」と

指摘。「今こそ『保険で良い歯科医療を』をどのようを実現していくか考えよう」と呼び掛けた。児嶋誠一氏（徳島県保険医協会会員）が講演。

「今日、『経済格差』が『命の格差』につながっている」と強調。特に歯科では、高い窓口負担のため、低所得者ほど受診抑制がおこり、口腔崩壊が起きていることを指摘。「税と社会保障の一体改革」で格差がさらに拡大していくことに警告を發した。

分科会では最後に、①高齢者のお口の健康を守ろう、②「保険で良い入れ歯、良い歯科医療」の実現、③歯科の保険範囲を広げよう、④国民、患者、歯科医療従事者の共同の運動を広げよう。以上4点の申し合わせ事項を参加者で確認した。